

九戸村地域福祉計画
住民アンケート調査
集計結果

平成30年3月

九戸村

目次

1章 調査の概要.....	1
1. 目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 設問.....	1
2章 アンケート結果.....	2
1. 回答者の属性.....	2
(1) 性別.....	2
(2) 年齢.....	2
(3) 居住地区.....	2
(4) 職業.....	3
(5) 家族構成.....	3
2. 地域の人との関わり・手助けの必要性.....	4
3. 地域の活動への参加.....	8
4. 災害時に支え合う地域づくり.....	12
5. 認知症対策や見守り・生活支援.....	13
6. 地域福祉の推進.....	16
①高齢者や一人暮らし世帯の方への支援が必要である(23件).....	22
②地域住民の交流が必要である(19件).....	23
③ボランティアや地域組織に関する意見(14件).....	24
④住民のマナーについて対策を講じるべきである(12件).....	25
⑤子育て支援を充実させてほしい(12件).....	25
⑥経済的な負担を軽減してほしい(12件).....	26
⑦医療機関を充実させてほしい(10件).....	26
⑧若者が減っている(10件).....	27
⑨世代間交流が必要である(10件).....	27
⑩役場や村への意見(7件).....	28
⑪困った時どこに相談すれば良いかわからない・相談できる場所が欲しい(9件).....	28
⑫アンケートに関する意見(4件).....	28
⑬除雪が大変である(8件).....	29
⑭ハード面の整備が必要である(8件).....	29
⑮老後の生活に不安を感じている(7件).....	29
⑯介護・福祉サービスを充実させてほしい(7件).....	30
⑰災害時の対応に関すること(6件).....	30
⑱少子高齢化対策を講じるべきである。(6件).....	31
⑲認知症や介護に不安を感じる(6件).....	31
⑳健康に留意して暮らしている(5件).....	31
㉑地域行事・イベント等に関する意見(4件).....	32
㉒街灯を増やしてほしい(5件).....	32

⑳村内放送が聞こえづらい（5件）	32
㉑交通手段の確保が必要である（5件）	32
㉒民生委員に関する意見（3件）	33
㉓人材育成が必要である（4件）	33
㉔商業施設を充実させてほしい（3件）	33
㉕障がい者への配慮が必要である（3件）	33
㉖道路を整備してほしい（3件）	33
㉗その他（18件）	34

1章 調査の概要

1. 目的

九戸村地域福祉計画策定にあたって、地域福祉に関する住民の意識や活動実態、施策に対する要望を把握することにより、基礎資料として活用することを調査の目的とする。

2. 調査方法

(1) 対象

平成 29 年 4 月現在の住民基本台帳の全 2,056 世帯を対象とした。

(2) 調査期間

平成 29 年 11 月中旬～12 月上旬。

(3) 回付及び回収

各地区の行政連絡員による配付及び回収。

(4) 回収数（回収率）

回収数は、1,638 票（回収率：79.6%）である。

3. 設問

平成 29 年度上半に九戸村社会福祉協議会（九戸村社協）が地域福祉活動計画策定に向けてアンケート調査を実施していることから、その結果をふまえ、重複した質問を避けて質問項目を設定するものとした。

本調査票の、アンケート項目として、「地域の人との関わり・手助けの必要性」、「地域活動への参加」、「災害時の支え合い」、「認知症対策や見守り・生活支援」、「地域福祉の推進」、それぞれについて設定した。

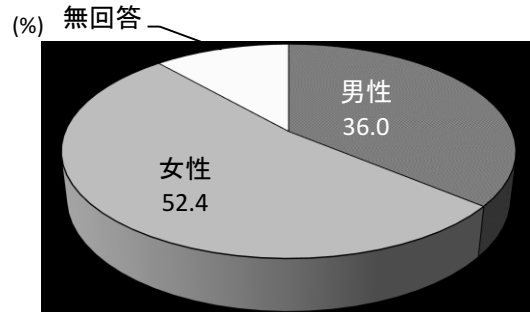
2章 アンケート結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	男性	589	36.0
2	女性	858	52.4
	無回答	188	11.5

有効票数 = 1636

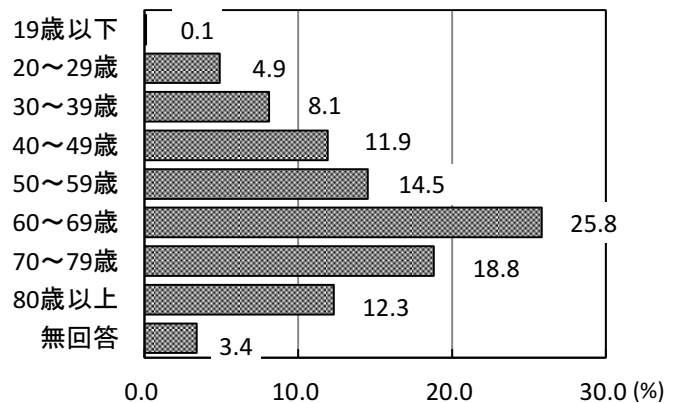


回答者のうち、「女性」が52.4%、「男性」が36%と女性の方が多くなっている。

(2) 年齢

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	19歳以下	2	0.1
2	20～29歳	81	4.9
3	30～39歳	133	8.1
4	40～49歳	195	11.9
5	50～59歳	238	14.5
6	60～69歳	423	25.8
7	70～79歳	308	18.8
8	80歳以上	201	12.3
	無回答	56	3.4

有効票数 = 1637

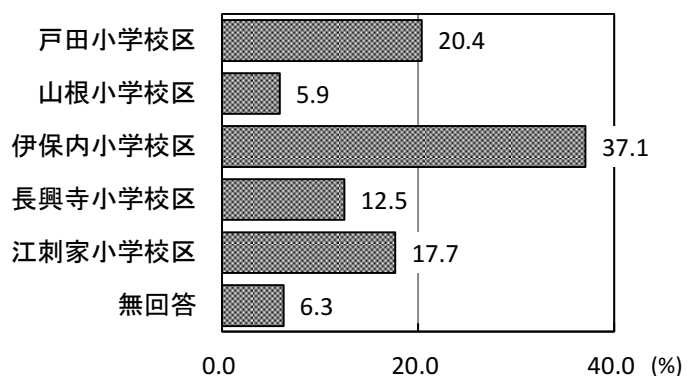


回答者の年齢は、「60～69歳」が25.8%と最も多く、次いで「70～79歳」が18.8%、「50～59歳」が14.5%の順で多くなっている。また、60歳以上が合計で56.9%、半数以上を占めている。

(3) 居住地区

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	戸田小学校区	334	20.4
2	山根小学校区	97	5.9
3	伊保内小学校区	606	37.1
4	長興寺小学校区	205	12.5
5	江刺家小学校区	290	17.7
	無回答	103	6.3

有効票数 = 1635

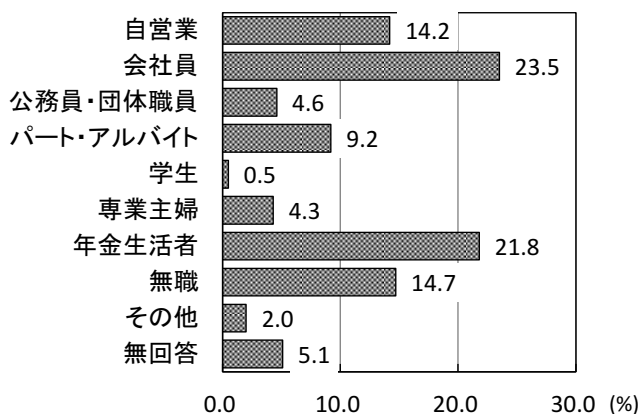


回答者の居住地区のうち、「伊保内小学校区」が最も多く37.1%を占め、次いで「戸田小学校区」が20.4%、「江刺家小学校区」が17.7%の順で多くなっている。

(4) 職業

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	自営業	232	14.2
2	会社員	385	23.5
3	公務員・団体職員	76	4.6
4	パート・アルバイト	151	9.2
5	学生	8	0.5
6	専業主婦	71	4.3
7	年金生活者	357	21.8
8	無職	241	14.7
9	その他	33	2.0
	無回答	83	5.1

有効票数 = 1637



回答者の職業のうち、最も多いのは「会社員」23.5%で、次いで「年金生活者」が21.8%、「無職」が14.7%の順で多くなっている。また、「年金生活者」と「無職」を合わせると、回答者の36.5%を占めている。

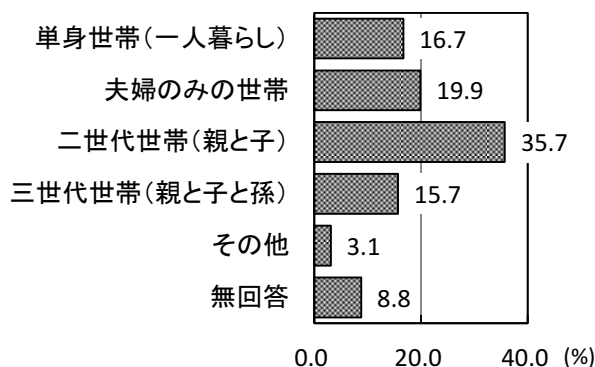
○その他

- ・委託業務
- ・就労支援B型作業員
- ・トレーダー
- ・嘱託社員
- ・臨時職員
- ・専従者

(5) 家族構成

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	単身世帯(一人暮らし)	274	16.7
2	夫婦のみの世帯	326	19.9
3	二世帯世帯(親と子)	585	35.7
4	三世帯世帯(親と子と孫)	257	15.7
5	その他	51	3.1
	無回答	144	8.8

有効票数 = 1637



回答者の家族構成は「二世帯世帯(親と子)」が最も多く35.6%、次いで「夫婦のみの世帯」が19.9%、「単身世帯(一人暮らし)」が16.7%の順で多くなっている。

○その他

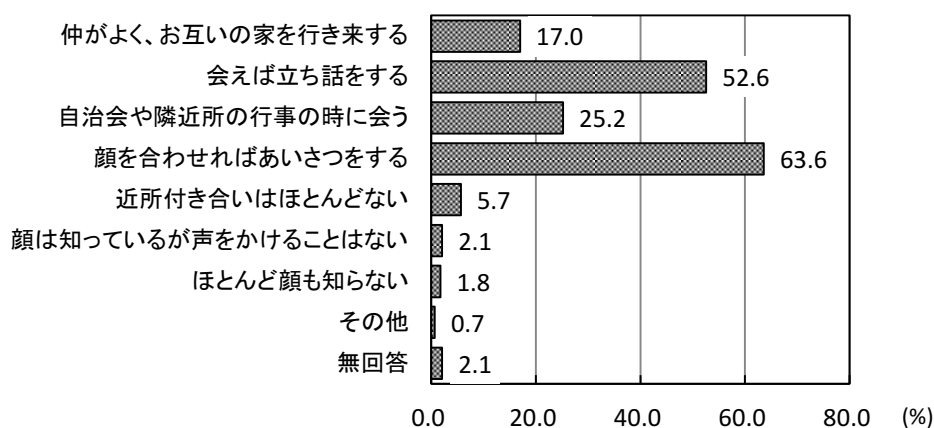
- ・四世帯住居(14件)
- ・施設に入居している(2件)
- ・夫婦と姉
- ・夫婦と叔父
- ・義理の姉
- ・兄、弟

2. 地域の人との関わり・手助けの必要性

問1 あなたは、地域の人とどのような付き合いをしていますか。【〇は2つまで】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	仲がよく、お互いの家を行き来する	274	17.0
2	会えば立ち話をする	846	52.6
3	自治会や隣近所の行事の時に会う	405	25.2
4	顔を合わせればあいさつをする	1,023	63.6
5	近所付き合いはほとんどない	92	5.7
6	顔は知っているが声をかけることはない	34	2.1
7	ほとんど顔も知らない	29	1.8
8	その他	11	0.7
	無回答	33	2.1

有効票数 = 1608



地域の人との付き合いは、「顔を合わせればあいさつをする」が最も多く 63.6%、次いで「会えば立ち話をする」52.6%が50%以上となっている。3番目に高いのは「自治会や隣近所の行事の時に会う」が25.2%となっている。

○その他

〈付き合いがない〉

- ・家から外に出ない。(2件)
- ・会いたくない

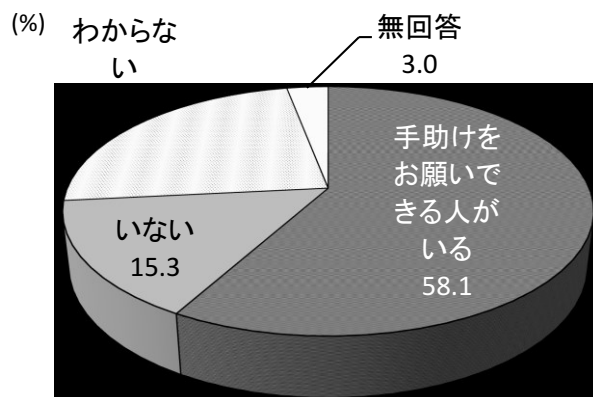
〈付き合いがある〉

- ・施設内の行事に参加している
- ・親しい人もいれば、付き合いのない人もいる。
- ・嫁ぎ先でそこまで付き合いはまだないが近くに親戚がおり付き合いがある。
- ・冬場には行き来することもある。
- ・老人公害にならないよう気を付けております。

問2 あなたが困った時に、手助けをお願いできる近所の人がありますか。【〇は1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	手助けをお願いできる人がいる	951	58.1
2	いない	250	15.3
3	わからない	387	23.6
	無回答	49	3.0

有効票数 = 1637

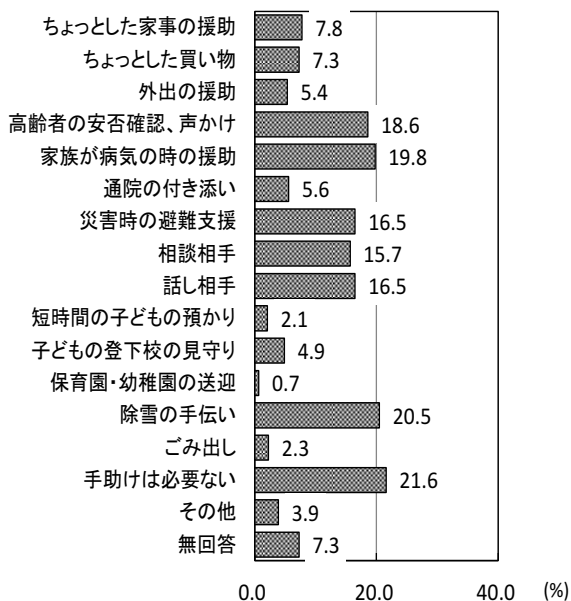


困った時には「手助けをお願いできる人がいる」と回答した人が 58.1%で、半数以上を占めているものの、6割に満たない。また、「いない」という回答は 15.3%となっている。

問3 あなたが手助けをお願いしたいことについて、お答え下さい。【〇は3つまで】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	ちょっとした家事の援助	128	7.8
2	ちょっとした買い物	119	7.3
3	外出の援助	88	5.4
4	高齢者の安否確認、声かけ	303	18.6
5	家族が病気の時の援助	323	19.8
6	通院の付き添い	91	5.6
7	災害時の避難支援	269	16.5
8	相談相手	256	15.7
9	話し相手	270	16.5
10	短時間の子どもの預かり	35	2.1
11	子どもの登下校の見守り	80	4.9
12	保育園・幼稚園の送迎	11	0.7
13	除雪の手伝い	334	20.5
14	ごみ出し	38	2.3
15	手助けは必要ない	352	21.6
16	その他	64	3.9
	無回答	119	7.3

有効票数 = 1633



手助けをお願いしたいことについて尋ねたところ、必要な手助けは「除雪の手伝い」が 20.5%と最も多く、次いで「家族が病気の時の援助」19.8%、「高齢者の安否確認、声かけ」が 18.6%と多くなっている。また、現状で「手助けは必要ない」とする回答が 21.6%となっている。

○その他

〈今のところは必要ない〉

- 今のところは必要ないが、将来必要 (15 件)
- その都度、手助けが必要としたとき

〈地域の手伝い〉

- 地区の行事 (5 件)
- 仕事の手伝い (3 件)
- 除雪
- 草取り

〈家庭の手伝い〉

- 農作業 (2 件)
- 冠婚葬祭 (2 件)
- 2~3日留守にするときの家の見守り。
- 儀礼祭祀
- 週一回弁当配達を受けている。

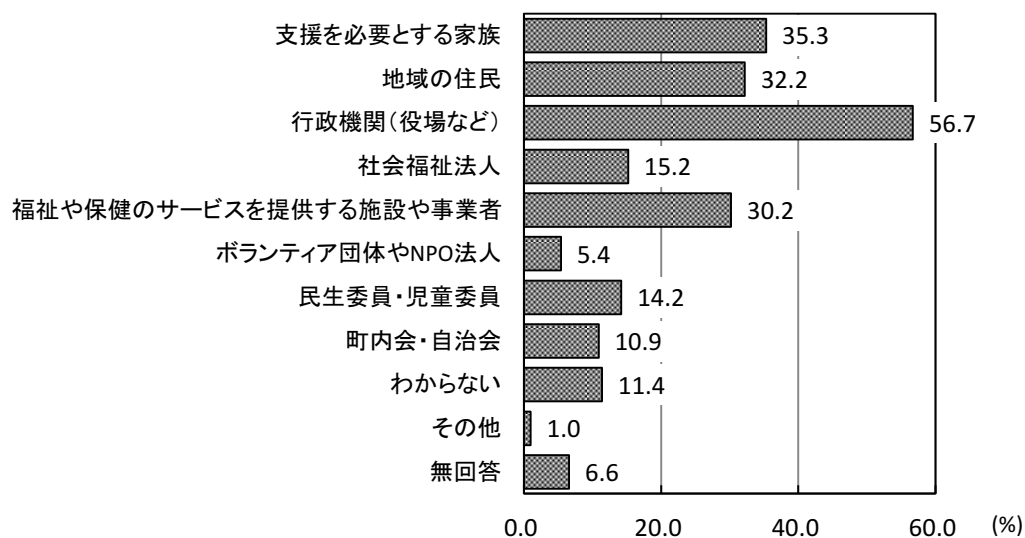
〈その他〉

- わからない
- 病気の時の援助
- ペットの世話

問4 日常生活で困ったことが起きた場合でも、誰もが住みなれた地域で生活していくために必要な手助けは、誰が（どこが）行うべきだと思いますか。【〇は3つまで】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	支援を必要とする家族	577	35.3
2	地域の住民	526	32.2
3	行政機関(役場など)	926	56.7
4	社会福祉法人	248	15.2
5	福祉や保健のサービスを提供する施設や事業者	493	30.2
6	ボランティア団体やNPO	89	5.4
7	民生委員・児童委員	232	14.2
8	町内会・自治会	178	10.9
9	わからない	186	11.4
10	その他	16	1.0
	無回答	108	6.6

有効票数 = 1634



必要な手助けを行うのは「行政機関（役場など）」とする回答が最も多く 56.7%、50%以上となっている。次いで「支援を必要とする家族」が 35.3%、「地域の住民」32.2%。「福祉や保健のサービスを提供する施設や事業者」が 30.2%と多くなっている。

○その他

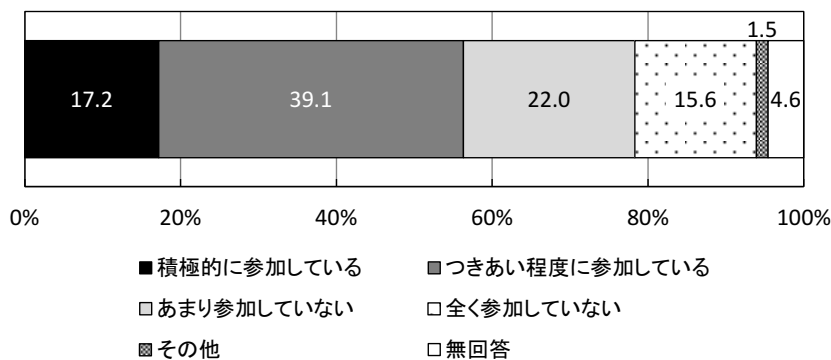
- できるところは近所づきあいで、できなくなったら家族施設など。
- 無償では限界があると感じる。報酬を求めるとはいいが give だけでも難しい。

3. 地域の活動への参加

問5 あなたは、自治会をはじめとする地域団体の活動にどの程度参加されていますか。【〇は1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	積極的に参加している	281	17.2
2	つきあい程度に参加している	639	39.1
3	あまり参加していない	360	22.0
4	全く参加していない	256	15.6
5	その他	24	1.5
	無回答	76	4.6

有効票数 = 1636



地域団体の活動には、「つきあい程度に参加している」が 39.1%と最も多く、次いで「あまり参加していない」が 22.0%、「積極的に参加している」17.2%の順で多くなっている。「全く参加していない」は 15.6%である。

「積極的に参加している」と「つきあい程度に参加している」を合わせると 56.3%、「あまり参加していない」「全く参加していない」を合わせると 37.6%となっており、参加している割合の方が多いいえる。

○その他

〈やむを得ず参加できない〉

- ・高齢の為参加できない（4件）
- ・障害があるため参加できない（3件）
- ・仕事の都合で参加できない

〈その他〉

- ・参加したくない
- ・わからない

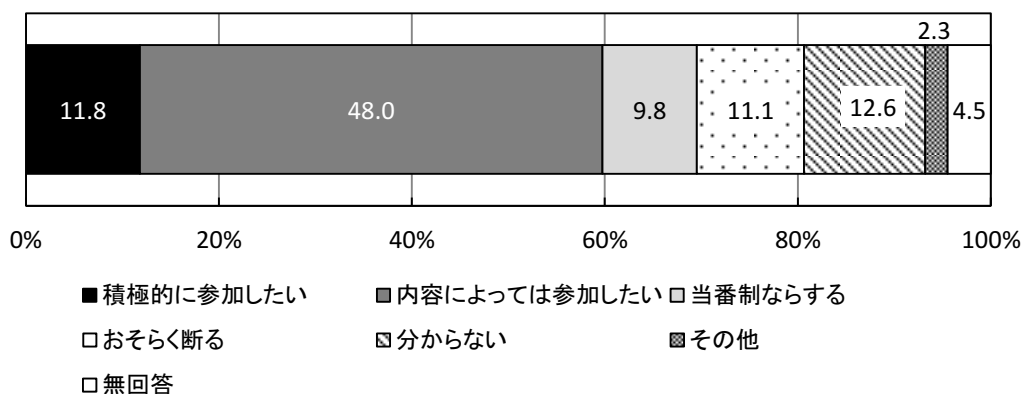
〈できるだけ参加している〉

- ・消極的に参加している（2件）
- ・出られるものは参加している（2件）
- ・夫がデイサービス利用日で時間内の活動にはなるべく参加している
- ・過剰にならないように参加している（2件）
- ・家族で分担している
- ・家族の者が参加している
- ・自分の部落の行事には参加している。

問6 今後、地域活動への参加の依頼があった場合、あなたはどのようにしますか。【〇は1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	積極的に参加したい	193	11.8
2	内容によっては参加したい	786	48.0
3	当番制ならする	160	9.8
4	おそらく断る	181	11.1
5	分からない	207	12.6
6	その他	38	2.3
	無回答	73	4.5

有効票数 = 1638



地域活動への参加依頼があった場合は、「内容によっては参加したい」が48.0%、半数近くを占めている。次いで「分からない」が12.6%、「積極的に参加したい」が11.8%、「おそらく断る」が11.1%の順で多くなっている。

○その他

〈参加できない〉

- ・病気の為参加できない（5件）
- ・高齢の為参加できない（4件）

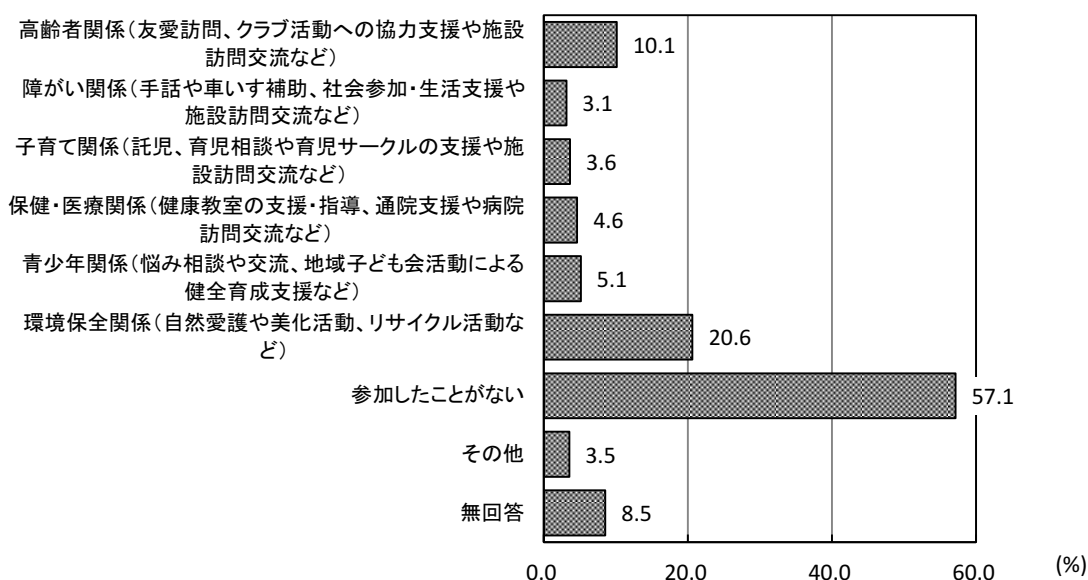
〈参加できる〉

- ・都合がつけば参加したい（3件）
- ・休日にも予定があるので、早めに知らせてもらえれば参加したい
- ・夫がデイサービス利用日なら参加したい
- ・子供が三歳くらいになれば時間的にも参加できそう
- ・断りたいが参加する
- ・仕事の休みがあれば参加する
- ・どうしてもやらなければならないときは参加する
- ・出たくないが、最小限で出る

問7 あなたはボランティアの活動に参加したことがありますか。【〇はいくつでも】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	高齢者関係(友愛訪問、クラブ活動への協力支援や施設訪問交流など)	166	10.1
2	障がい関係(手話や車いす補助、社会参加・生活支援や施設訪問交流など)	51	3.1
3	子育て関係(託児、育児相談や育児サークルの支援や施設訪問交流など)	59	3.6
4	保健・医療関係(健康教室の支援・指導、通院支援や病院訪問交流など)	75	4.6
5	青少年関係(悩み相談や交流、地域子ども会活動による健全育成支援など)	83	5.1
6	環境保全関係(自然愛護や美化活動、リサイクル活動など)	338	20.6
7	参加したことがない	936	57.1
8	その他	58	3.5
	無回答	139	8.5

有効票数 = 1638



ボランティア活動については「参加したことがない」とする回答が57.1%、50%以上を占めている。参加したことがある方については、「環境保全関係(自然愛護や美化活動、リサイクル活動など)」が最も多く20.6%、「高齢者関係(友愛訪問、クラブ活動への協力支援や施設訪問交流など)」は10.1%である。

○その他

〈参加している〉

- ・災害支援(7件)
- ・交通安全(2件)
- ・介護予防教室
- ・昼食の配達
- ・婦人消防協力隊
- ・学校や親戚の草取りなど
- ・公民館の生涯教育
- ・毎月一回参加している

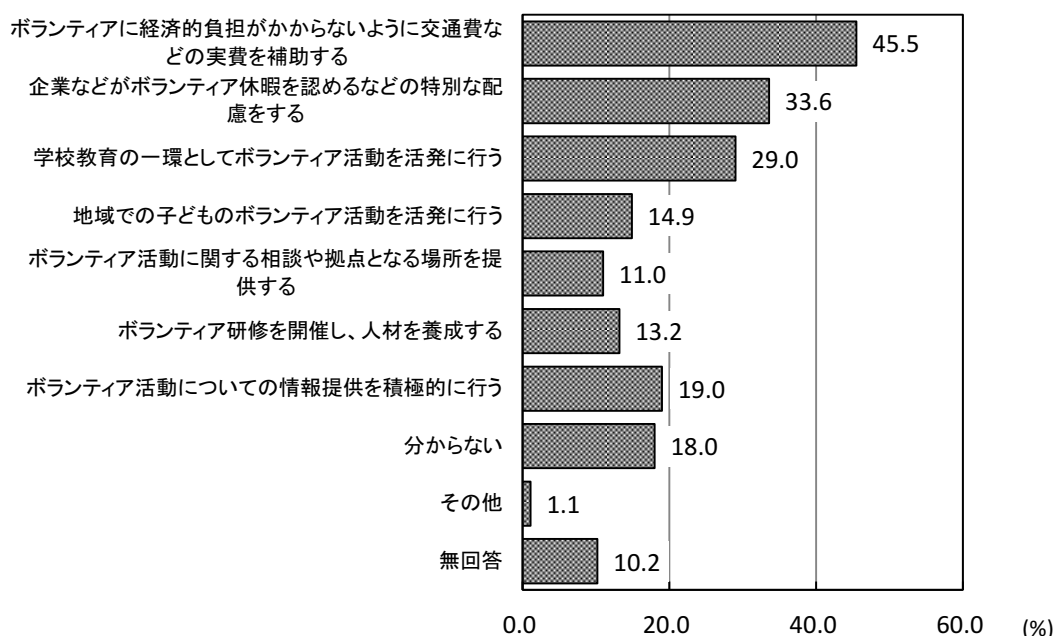
〈今は参加していない〉

- ・たくさんやってきました
- ・自分の身の回りでいっぱいです
- ・平日のボランティア活動は参加できない
- ・ほとんどありません
- ・88歳になり参加していない
- ・若い時、活動していた。

問8 ボランティア活動の普及に、どのようなことが必要と思いますか。【〇は3つまで】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を補助する	735	45.5
2	企業などがボランティア休暇を認めるなどの特別な配慮をする	542	33.6
3	学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う	468	29.0
4	地域での子どものボランティア活動を活発に行う	241	14.9
5	ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する	178	11.0
6	ボランティア研修を開催し、人材を養成する	213	13.2
7	ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う	307	19.0
8	分からない	290	18.0
9	その他	17	1.1
	無回答	165	10.2

有効票数 = 1615



ボランティア活動の普及については「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を補助する」が45.5%である。次いで「企業などがボランティア休暇を認めるなどの特別な配慮をする」が33.6%、「学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う」が29.0%の順で多くなっている。

○その他

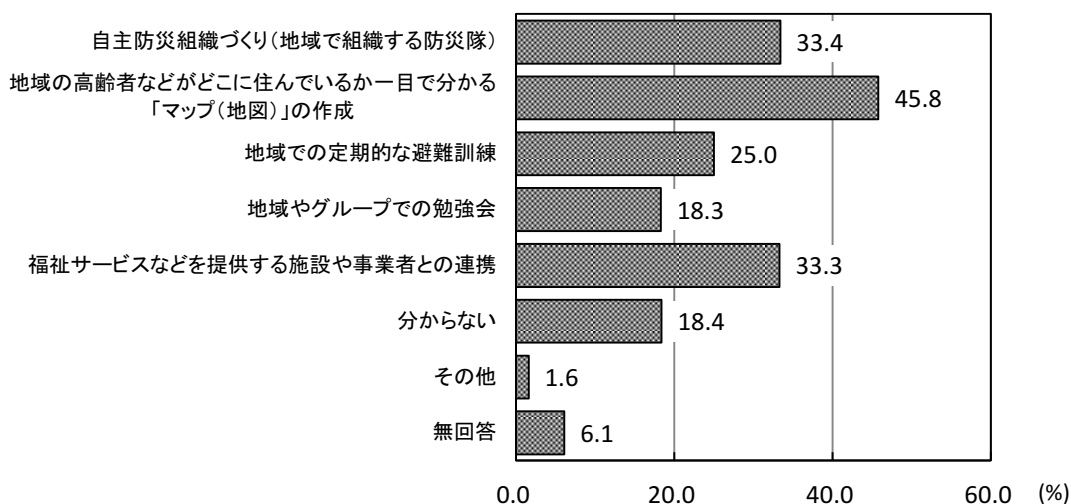
- ・押しつけボランティアをなくする。
- ・企業などに災害時のボランティアの実費を補助する。
- ・継続的なボランティア活動の実施、他市町村等の活動を実験的に行い普及と発展につなげていくべき。
- ・その活動の専門家や責任者を明確にしてこそのもであってほしい。
- ・ボランティア募集の周知。どんな人が参加しているか、どんな内容なのかの情報提供、公開。
- ・私は90歳、娘は68歳障がい者で何にも役に立てません。
- ・有償ボランティア
- ・活動可能人数は確保できるのか分からない
- ・すでに「ボランティア」の名を借りた強制作業が多い。

4. 災害時に支え合う地域づくり

問9 災害が発生した際の避難支援など、何が必要と思いますか。【〇は3つまで】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	自主防災組織づくり(地域で組織する防災隊)	547	33.4
2	地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目で分かる「マップ(地図)」の作成	751	45.8
3	地域での定期的な避難訓練	409	25.0
4	地域やグループでの勉強会	300	18.3
5	福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携	545	33.3
6	分からない	301	18.4
7	その他	27	1.6
	無回答	100	6.1

有効票数 = 1638



災害が発生した際の避難支援などについて必要なものは「地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目で分かる「マップ(地図)」の作成」が最も多く45.8%を占めている。次いで「自主防災組織づくり(地域で組織する防災隊)」が33.4%、「福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携」が33.3%の順で多くなっている。

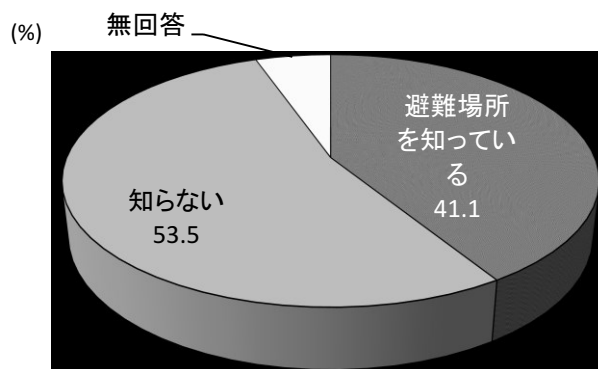
○その他

- ・避難場所が分かるように知らせて欲しい(2件) ・村の無線を通してもらいたい。
- ・暖を取ったり、調理をしたりするための炭や練炭、食材、トイレトーパー、トイレなどの確保
- ・各消防団が協力できれば良い。 ・各家庭の防災意識
- ・災害が発生しにくい対策を強化したうえでなければならない。
- ・高齢者マップに家族数を入れてはどうか。 ・高齢者マップ悪用を防止する。
- ・行政のリーダーシップ
- ・各個人の意思で避難する(2件) ・災害の種類による。
- ・日中は70代~90代しかいない。災害直後、地域で何が出来るか不安。
- ・勉強会は必要と思いますが、自主防災隊を組織するのは、負担が大き過ぎる。

問 10 あなたは、緊急災害時の避難場所を知っていますか。【〇は1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	避難場所を知っている	674	41.1
2	知らない	876	53.5
	無回答	88	5.4

有効票数 = 1638

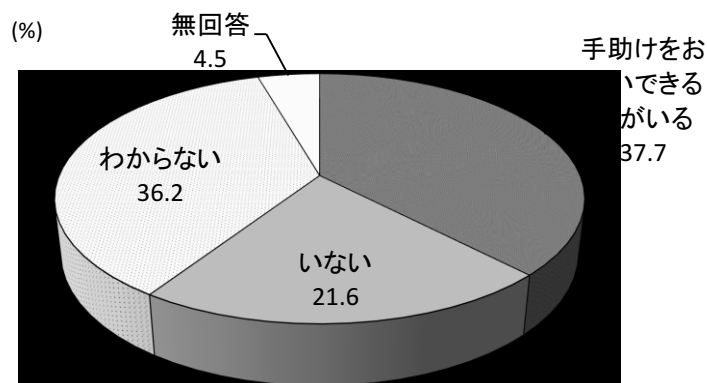


緊急災害時の避難場所については、「知らない」とする回答が53.5%、過半数を占めている。「避難場所を知っている」とする回答が41.1%に留まっており、「知らない」の方が多くなっている。

問 11 緊急災害時に、避難の手助けをお願いできる近所の人かいますか。【〇は1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	手助けをお願いできる人がいる	617	37.7
2	いない	354	21.6
3	わからない	592	36.2
	無回答	73	4.5

有効票数 = 1636



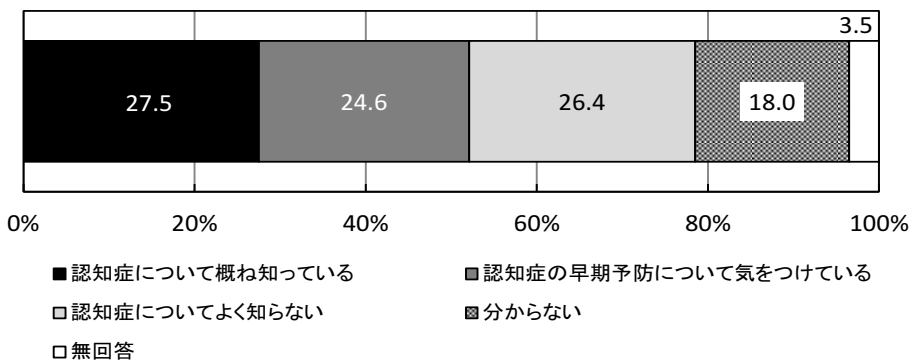
避難の手助けをお願いする人については「いる」が37.7%と最も多く、次いで「わからない」36.2%、「いない」は21.6%となっている。

5. 認知症対策や見守り・生活支援

問 12 あなたは認知症の内容や早期予防についてご存じですか。【〇は1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	認知症について概ね知っている	448	27.5
2	認知症の早期予防について気をつけている	402	24.6
3	認知症についてよく知らない	430	26.4
4	分からない	294	18.0
	無回答	57	3.5

有効票数 = 1631



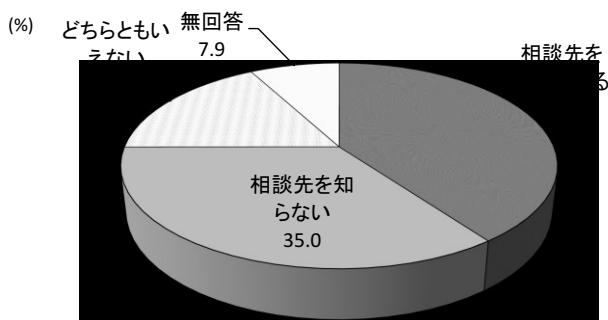
認知症や早期予防については、「認知症について概ね知っている」は 27.5%、次いで「認知症についてよく知らない」が 26.4%、「認知症の早期予防について気をつけている」が 24.6%となっている。

「認知症についてよく知らない」と「分からない」を合わせると半数弱、44.4%を占めている。

問 13 あなたは、認知症や介護などで困った時、どこに相談すればよいか知っていますか。【〇は1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	相談先を知っている	654	39.9
2	相談先を知らない	574	35.0
3	どちらともいえない	280	17.1
	無回答	130	7.9

有効票数 = 1638

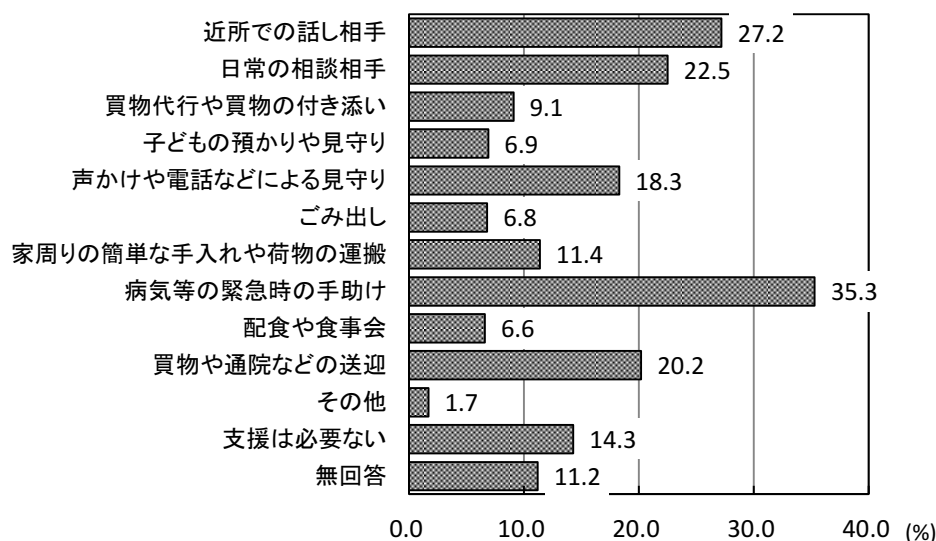


認知症や介護の相談については「相談先を知っている」が 39.9%、「相談先を知らない」が 35.0%となっている。また、「相談先を知らない」と「どちらともいえない」を合わせると 52.1%と5割以上を占めている。

問 14 見守りや生活支援について、あなたのお住まいの地域で利用したいと思われるものはどれですか。【〇はいくつでも】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	近所での話し相手	446	27.2
2	日常の相談相手	368	22.5
3	買物代行や買物の付き添い	149	9.1
4	子どもの預かりや見守り	113	6.9
5	声かけや電話などによる見守り	299	18.3
6	ごみ出し	111	6.8
7	家周りの簡単な手入れや荷物の運搬	186	11.4
8	病気等の緊急時の手助け	578	35.3
9	配食や食事会	108	6.6
10	買物や通院などの送迎	331	20.2
11	その他	28	1.7
12	支援は必要ない	235	14.3
	無回答	184	11.2

有効票数 = 1638



見守りや生活支援について地域で利用したいものは、「病気等の緊急時の手助け」が 35.3%、次いで「近所での話し相手」が 27.2%、「日常の相談相手」が 22.5%、「買物や通院などの送迎」が 20%以上となっている。

○その他

〈お手伝いしてほしいこと〉

- ・除雪作業（2件）
- ・力仕事、高い所での作業等チョットしたことへの支援。
- ・地区行事の内容を説明してくれる人。
- ・日常生活の補助。
- ・お節介する人。
- ・村内外の交通手段。

〈必要ない・わからない〉

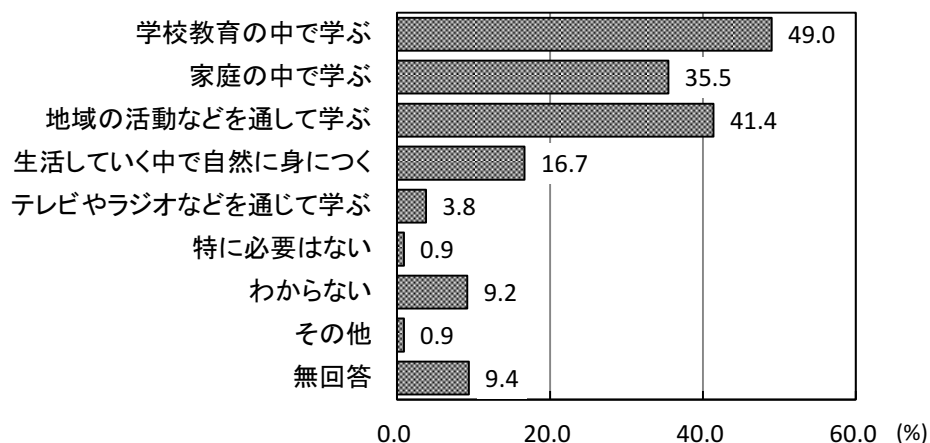
- ・今のところは必要ない（4件）
- ・回答は老人に特化したのが多く、答えようがない。
- ・支援してくれるとは思えない。
- ・よくわからない。

6. 地域福祉の推進

問 15 子どもたちに対する福祉教育（思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育）について、どのように行うべきとお考えですか。【〇は2つまで】

選択肢	回答数(人)	比率(%)
1 学校教育の中で学ぶ	792	49.0
2 家庭の中で学ぶ	574	35.5
3 地域の活動などを通して学ぶ	669	41.4
4 生活していく中で自然に身につく	269	16.7
5 テレビやラジオなどを通じて学ぶ	61	3.8
6 特に必要はない	14	0.9
7 わからない	149	9.2
8 その他	14	0.9
無回答	152	9.4

有効票数 = 1615



子どもたちへの福祉教育については、「学校教育の中で学ぶ」が最も多く 49%、次いで「地域の活動などを通して学ぶ」が 41.4%、「家庭の中で学ぶ」が 35.5%と多くなっている。

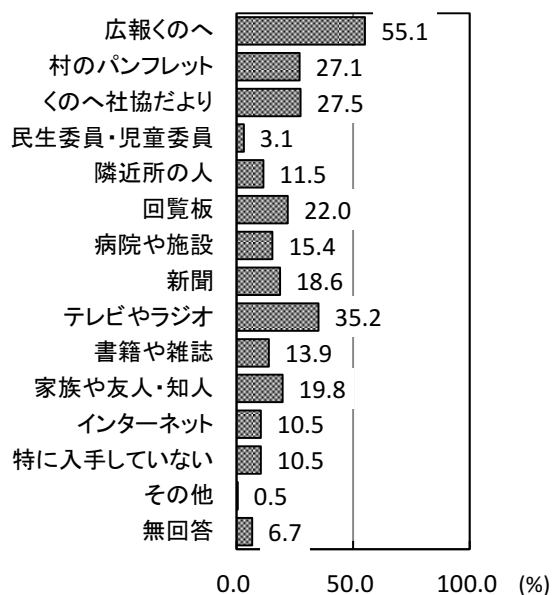
○その他

- ・各職場で行う。
- ・生活の中で、身につくような環境づくり。
- ・ボランティアへの参加を促す。
- ・役場で取り組む。
- ・学校、家庭、地域、三位一体で学ぶ。
- ・教育者、指導者が思いやりの心を持ち、人の気持ちが分かる人間づくり。
- ・公民館の生涯教育で行う、そのためには、やはり職員の教育が必要である。
- ・親以外に近所の大人が色々教えていく。
- ・子どもも大事だが、先に親への教育を行う（2件）。
- ・基本①、②を通し、④になっていくと思うが、今はそれが難しいのであれば、意図的に働きかける勉強や、体験等が必要かもしれない。

問 16 福祉や健康に関する情報を何から入手していますか。【〇はいくつでも】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	広報くのへ	902	55.1
2	村のパンフレット	444	27.1
3	くのへ社協だより	451	27.5
4	民生委員・児童委員	50	3.1
5	隣近所の人	189	11.5
6	回覧板	361	22.0
7	病院や施設	252	15.4
8	新聞	305	18.6
9	テレビやラジオ	577	35.2
10	書籍や雑誌	228	13.9
11	家族や友人・知人	324	19.8
12	インターネット	172	10.5
13	特に入手していない	172	10.5
14	その他	8	0.5
	無回答	109	6.7

有効票数 = 1638



福祉や健康に関する情報の入手先は「広報くのへ」が55.1%と50%以上を占め、次いで「テレビやラジオ」が35.2%、「くのへ社協だより」が27.5%の順で多くなっている。

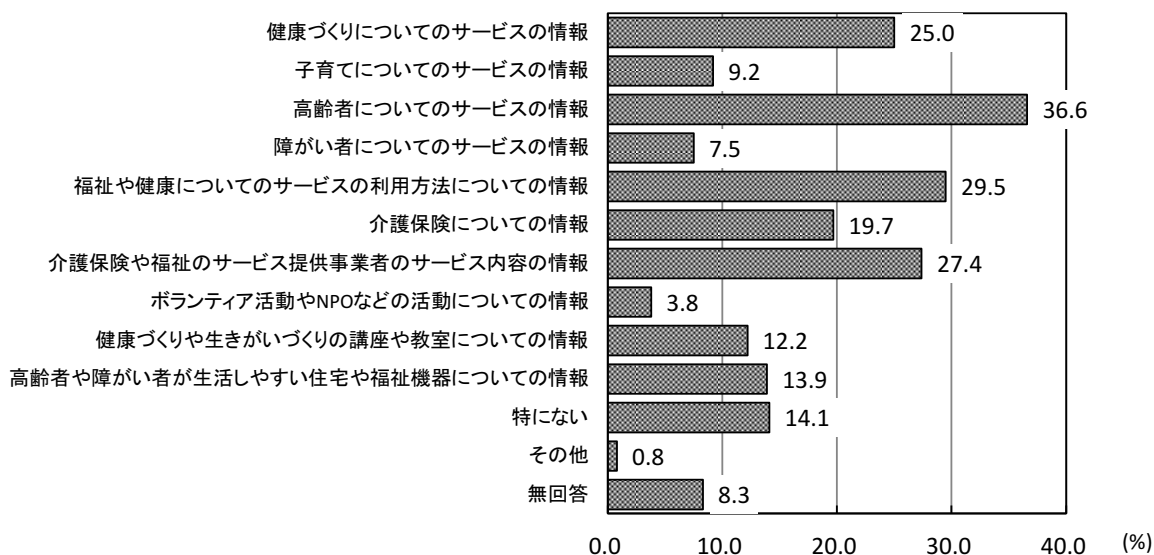
○その他

- ・職場（2件）
- ・大学で学んでいます
- ・MOA 自然農法促進グループ

問 17 福祉や健康について、どんな情報を知りたいとお考えですか。【〇は3つまで】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	健康づくりについてのサービスの情報	405	25.0
2	子育てについてのサービスの情報	149	9.2
3	高齢者についてのサービスの情報	593	36.6
4	障がい者についてのサービスの情報	122	7.5
5	福祉や健康についてのサービスの利用方法についての情報	478	29.5
6	介護保険についての情報	319	19.7
7	介護保険や福祉のサービス提供事業者のサービス内容の情報	443	27.4
8	ボランティア活動やNPOなどの活動についての情報	62	3.8
9	健康づくりや生きがいづくりの講座や教室についての情報	198	12.2
10	高齢者や障がい者が生活しやすい住宅や福祉機器についての情報	225	13.9
11	特にない	228	14.1
12	その他	13	0.8
	無回答	135	8.3

有効票数 = 1619



福祉や健康について得たい情報は、「高齢者についてのサービスの情報」が 36.6%と最も多く、次いで「福祉や健康についてのサービスの利用方法についての情報」29.5%、「介護保険や福祉サービス提供事業者のサービス内容の情報」が27.4%、「健康づくりについてのサービスの情報」が25.0%となっている。

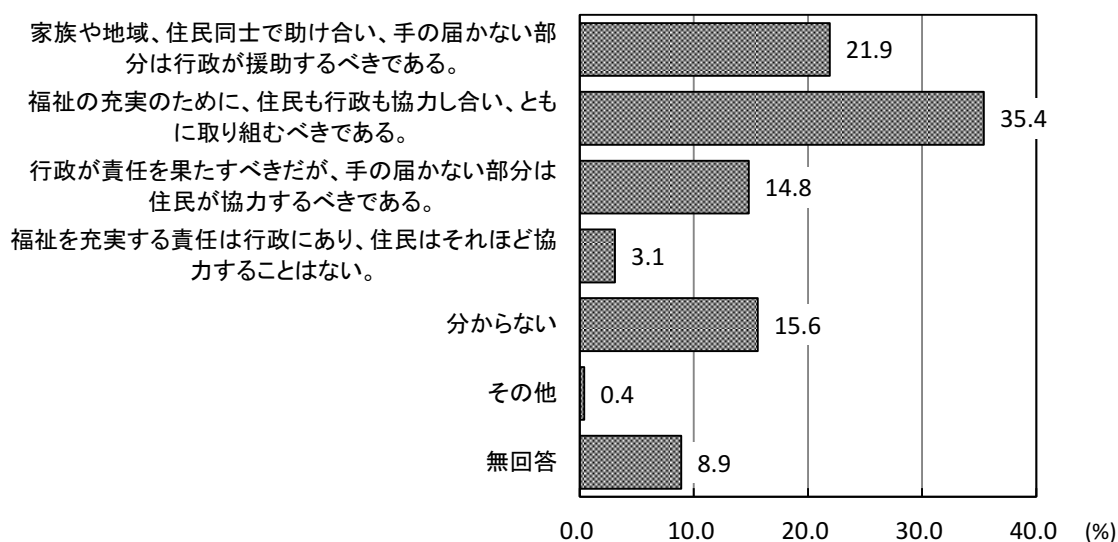
○その他

- ・現状で満足している（2件）
- ・自分の体力に合った運動。
- ・目線を常に老人に。
- ・わからない
- ・私の地域の方々は、村の福祉の講座や教室に行っている人を「遊んでいる」と思っている感じがある。畑で仕事をするのが生きがいのような。働けなくなると家にこもりがち。集会所単位で行事があればと思う。（私の実家では、料理会と健康体操、昔遊び大会「どっぴきとかお手玉とか」を集会所でやっていた。孫も一緒にOKだった。）

問 18 地域福祉の充実に向けて、住民と行政の関係をどうお考えですか。【〇を1つ】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	家族や地域、住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助するべきである。	354	21.9
2	福祉の充実のために、住民も行政も協力し合い、ともに取り組むべきである。	573	35.4
3	行政が責任を果たすべきだが、手の届かない部分は住民が協力するべきである。	240	14.8
4	福祉を充実する責任は行政にあり、住民はそれほど協力することはない。	50	3.1
5	分からない	252	15.6
6	その他	6	0.4
	無回答	144	8.9

有効票数 = 1619



地域福祉の充実に向けた住民と行政の関係については「福祉の充実のために、住民も行政も協力し合い、ともに取り組むべきである」とする回答が最も多く 35.4%である。次いで「家族や地域、住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助するべきである」が 21.9%、「行政が責任を果たすべきだが、手の届かない部分は住民が協力するべきである」が 14.8%となっている。

「家族や地域、住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助するべきである。」と「福祉の充実のために、住民も行政も協力し合い、ともに取り組むべきである。」を合わせると 57.3%である。また、「行政が責任を果たすべきだが、手の届かない部分は住民が協力するべきである。」と「福祉を充実する責任は行政にあり、住民はそれほど協力することはない。」を合わせると 17.9%となっている。

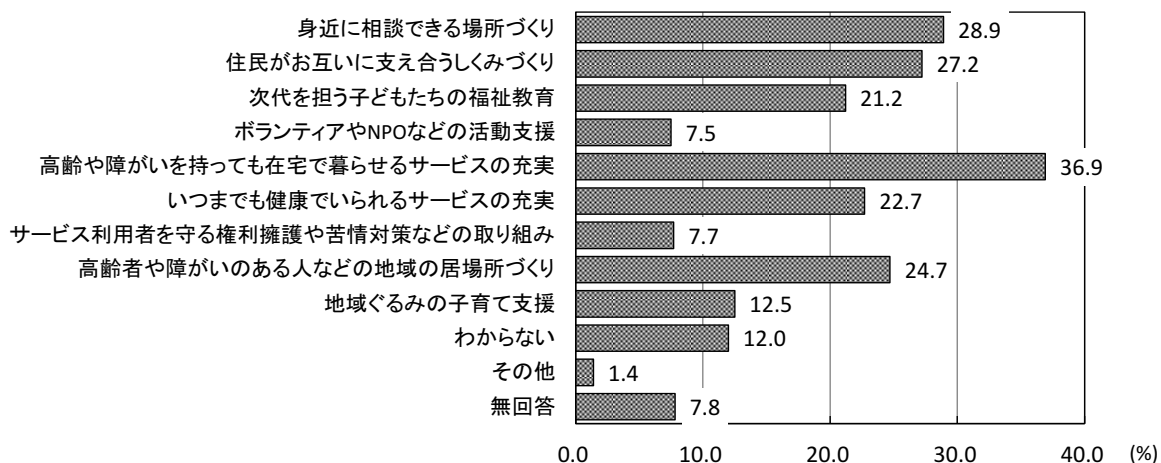
○その他

- ・福祉を充実する責任は行政にあり、手の届かない部分は住民が協力。
- ・行政が枠組み等を決め、提供し、住民は積極的に参加し、意見も伝え協力し合うべき。
- ・迷ったときに、どこに相談すれば良いかわからない人が多いと思う。
- ・(①②③の選択肢に対して) べきであると思わない。 ・設問が幼稚である。
- ・福祉が何を指すのか明確でない為考えられない。

問 19 今後、村ではどのような施策を優先して充実すべきと思いますか。【〇は3つまで】

	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	身近に相談できる場所づくり	472	28.9
2	住民がお互いに支え合うしくみづくり	445	27.2
3	次代を担う子どもたちの福祉教育	346	21.2
4	ボランティアやNPOなどの活動支援	122	7.5
5	高齢や障がいを持っても在宅で暮らせるサービスの充実	604	36.9
6	いつまでも健康でいられるサービスの充実	371	22.7
7	サービス利用者を守る権利擁護や苦情対策などの取り組み	126	7.7
8	高齢者や障がいのある人などの地域の居場所づくり	404	24.7
9	地域ぐるみの子育て支援	204	12.5
10	わからない	197	12.0
11	その他	23	1.4
	無回答	127	7.8

有効票数 = 1635



村の優先施策は、「高齢や障がいを持っても在宅で暮らせるサービスの充実」が最も多く 36.9%、次いで「身近に相談できる場所づくり」が 28.9%、「住民がお互いに支え合うしくみづくり」27.2%の順となっている。

○その他

〈育児に関すること〉

- 子育て支援（2件）。
- 育児と介護で仕事できない人を支える仕組みづくりをする。
- 人、子を育てる。

〈仕事に関すること〉

- 働く場所を確保すること。
- 給料をたくさんくれる会社を作る。

〈相談を聞いてくれる場所づくり〉

- 介護をする人たちの話を聞いてくれるところ。
- 相談しようとするが、人にばかにされるので話すことがない。
- どれも大事なので、まず相談話ができる場所、人がはっきり分かると、そこから次につなげ、対応できるのではないか。ただし背を張る（構えてしまう）ような相談場所や人でなく、おしゃべりサロンのような感じで、気軽なところが必要と思います。

〈その他〉

- 優先順位をつけるのは難しい（2件）。
- 医療施設の充実。
- 各地区に気軽に立ち寄れる場所づくり。
- 逆に村が何を目標しているのか知りたいです。
- 行政は認識しているか知りませんが、いまだに行政などの文書等を理解できない人（読み書きできない人）はかなりいます。そのために、村の検診、選挙、アンケート等行く気になりません。代書はできませんと言われても書けないのです。そういうことをやさしくやってくれるところがあればと思う。
- 全部優先すべきと思う。
- 地域から提案し、それを行政に届ける人が必要で、その道筋を一本にし、行政がまとめてくれたものを実行してくれる人。
- 人間老いる。さてどうするか、若い時から教えるべきである。
- 平等に、希望をもって、老後を送れる仕組み。
- 若者が村から出ていかない。できれば村に残ってもらえるような対策。
- 村の商品券を商工会以外の場所で使用できる施策。

問20 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせることのできる地域づくりを進めるために、日頃感じていること、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

①高齢者や一人暮らし世帯の方への支援が必要である（23件）

- ・一人暮らしの老人宅に定期的に訪問して様子を見るとか、何か困っていることを手助けしてくれるような仕組みがあるといいなと感じている。
- ・一人暮らしになっても安心して家で長く生活できるような支援を多く作ってほしいです。
- ・高齢者が多い。高齢者の一人暮らしの人に、行政の手が回っていない。
- ・高齢者も一人暮らしの人が多くなっているのが現状だと思うので、見回りが必要だと思う。
- ・60歳～75歳までの職場がもっともっとあって欲しい。その中からの友達とか会話がたくさん出て楽しく明るくなるのではないのでしょうか。
- ・グループホーム的な暮らしの場所づくりや、平日の午前午後地域で一緒に取り組めること（畑作業や植林等）引きこもりの20代への仕事の提供、60歳以上の人の仕事等を考えていく場を自治会ごとに作る。
- ・高齢者が入所できる施設の拡充。
- ・高齢者で健康であれば働ける仕事が欲しい。
- ・高齢者等の集まりに行政の支援をもっとしてほしい。
- ・高齢者の話し合う場所、機会が今よりたくさんあればいいと思う。
- ・ご近所に一人暮らしの世帯が多いので、何かあった時にすぐわかるようなシステム（通信サービスなど）が充実したらいいと思います。
- ・自分の体の老化についての知識も必要かと思っています。指導を受け、老化防止に役立つように運動もしていくようにすればよい。
- ・世帯減、人口減で集落の存続の危機に立たされています。子育て支援も選挙の公約には良いですが、60～65歳の高齢者の生活も大変ですよ。これも充実するよう種々村としてもぜひお願いします。
- ・村内の一人暮らしの老人が病で孤独死していたことがありました。食事面でも気がかりでしたが、他人がどうすることもできませんでした。この様なことがない様な村にするための対策を考えたいと日ごろ思っています。今後、老人世帯が多くなります。高齢者の住みやすい村づくりを望むところです。
- ・一人暮らしなので、病気になった時は心配です。
- ・一人暮らしのお年寄りが非常に増えている。地元商店に協力し、宅配サービス等を利用して生存確認、生活状況の確認等を行い、情報共有する仕組みを作ってはどうか。
- ・一人暮らしの老人が増えてきているので、買い物や病院などのサービスを充実させてほしい。
- ・夫婦のみ世帯の生活でもうすぐ高齢者となるため、健康づくりや生きがいづくりの講座や教室にとっても興味を持っております。
- ・まわりが後期高齢者になり、若い人が少なくなるので、どのように前も向いていけばいいかわからない。
- ・老人世帯が増えていく中で安心して暮らすことができる策に取り組んでもらいたい。ポタソ一つで保健センターにつながり何でも相談できるシステムを作って欲しい。
- ・老人世帯も増加し、孤独死も起きていますが、老人が安心して暮らせる地域であることを願っています。
- ・若い方々の力が必要です。若者定住できる村づくりをお願いします。言い方は悪いですが、私たち年寄りばかりでは安心して暮らせません。
- ・病院への通院。食事、入浴などの介助。

②地域住民の交流が必要である（19件）

- 地域住民が信頼しあい、お互いに助け合えるような仕組み作りができればよいと思います。
- 地域に住んでいる人たちでも、顔を見てもわからない人もいるので、せめて一つの部落で、皆が集まって交流できる場所があればと思います。
- 地域ごとに気軽に集える場所づくりも行ってほしい。
- 会社勤めをしていると、平日の夜・土日しか家におらず、近所の人とのコミュニケーションがあまり取れない。外から引っ越してくると、元々住んでいた住民の皆さんは自分たちのことを知っていても、自分たちは行事等であっても、どこの誰かもわからないまま接する感じになり、行事に参加したからといっても近所や地域の人とコミュニケーションが取れるというわけではないのを感じる。
- 行政の力だけで生活を支えるのは、とても難しいことだと思います。昔とは異なり、近所付き合いが減っている今、地域で声をかけて支えあうことが必要だと感じます。まして、若い世代は日中外で働き、休日や夜は家で過ごし、地域と交流機会も少なく、将来私たちが高齢になった時どのような地域になっているのかな…と不安になります。若い世代は、まず「地域に興味を持つこと」が必要だな…と感じております。
- 地域で助け合うという気持ちは持っていますが、いざ自分が困った時には近所の世話にはなりたくない、知られたくないという地域性は大きいと思うので、行政が最初に関わって地域に助成という方法だと、助け合いもスムーズにできるのではないかとと思われる。
- 地域での定期的なコミュニケーションづくりや心配ごとなど気軽に話せる環境づくり。
- 地域のコミュニティ能力の向上が必要。また、困っている方々などが集える場所の提供、ボランティアなどが気楽に集い、サービスを提供できる場所づくり、一人暮らしの老人の安否確認の必要性も高まっていると思います。
- 時々の顔合わせや、話し合い、情報のお知らせ等、交流を持つ機会をつくっての生活を。行政への交わりも必要ですので、知らないことは何でも相談するようにするとよいと思います。また、人の為、村の為に活動できるよう努力していきたいです。
- 得意、不得意、足、不足を補い合って、より暮らしやすい地域にできるよう、情報交換の場が日常的にあると良いなと思います。年をとって出歩くことが少なくなって、なかなか地域の情報に接することができなくなりました。
- 年齢を重ねればお互いの家を行き来したりし合えば何十分も話をしています。地域で助け合いながら生活できる場所そんな居場所づくりを目指す一人です。
- 人と人のつながりが少なくなっていると思う。
- 皆さんが年老いても元気で地域で生活できるように支えていければいいと思う。日頃から近所同士でもコミュニケーションを気軽にとれるように心がけている。
- 若い時と比べ近所付き合いが少ない。
- 近所の付き合いなども特になかったので反省しています。住みやすい地域づくりのために、自分で何ができるのか、考えていきたいと思います。
- 近隣住民の助け合いの精神がなく、思いやりの心を持てる環境作りが必要な気がする。
- 九戸村は、他の市町村に比べ充実していると思いますが、地域での連帯感が昔と比べ薄れてきているのでは…。若い世代にだけ求めるのもどうかと思われるし、とても難しい問題だと感じます。
- 住民の皆さん同士がお互いを気遣い声かけ他明るい生活ができるような環境づくりができればと思います。
- 地域住民の方が安心して暮らすにはきずなが大事だと思います。

③ボランティアや地域組織に関する意見（14件）

- 行政がボランティア活動に対し、積極的な援助体制を作る。
- 今まで、福祉や役場で開催されている行事に参加したことがあまりない方々が多いので、まずは集会所単位で開催してもらって、参加することに慣れてもらいたい。
- 行事が多い上に、参加しないと文句が出てくるので困る。働いている中で、わざわざ休んでまでもする必要はないと思います。
- 九戸村は、ボランティア活動が活発だと思います。ボランティアは善意の上成り立っているもので、素晴らしいことです。そして、地域住民のつながりも強いと感じます。子育てサロンなどで、ボランティアさんの支援を受けていますが、私自身、ボランティア活動には参加していません。子育てをしながらでもできる活動があれば参加したいので、そういった情報を提供してほしいと思います。「住民の方が望むサービスの一覧表を作成→各々ができるものをチェックし、ボランティア活動に登録→要望があれば活動を行う」ようなシステムがあるといいと思いますが、なかなか難しいだろうと思います。
- 現在、自分自身の生活で精いっぱいですが、今後、地域の方々の力になれる様、積極的に活動等に参加したいと思います。
- 今後は無償のボランティアや住民のコミュニティに頼らず、行政が福祉を担うべきだと思います。また、ボランティアも無償ではなく、ボランティア参加者の生活の助けになるような何か、例えば商品券、割引券を配布するなどの工夫が必要だと思います。
- 自治会等が自主的に活動することを望む。
- 地域住民が高齢者や障がい者、子どもたちと協力して、見守りやお世話ができるボランティアづくりが必要だと感じています。一人暮らし高齢者、老人世帯において老人介護施設に入所できない軽度障がいの老人（在宅生活が困難）が入居できる施設が必要だと感じています。
- 地域づくりに、また、ボランティア等何か自分にはできないだろうかと考えていてもなかなか実行に移せていません。自分に合った協力の仕方や、ボランティアの内容で参加していけるようになりたいなあと思っています。
- 地域の活動が多すぎる。働く人にとっては負担が大きすぎる。行事に参加したくないが、参加しなければならぬ状況です。
- 地域の行事が多すぎて困っています。学校行事なども多くあるため、今の人たちの仕事は土日や夜間の仕事の方も多いため、地域の老人たちが「出るのが当たり前」な考えで昔からやっているやり方を変えたがらないというのが問題です。いやいややる行事より、きちんと精査して必要な行事を残して、ほかは仕事をリタイアした方々の楽しみややりがいのための行事にしてもらいたい。行政が行事に入ることにより、やめることができなくなっているものがあります。
- ボランティア活動も大切と思いますが、九戸村は今後ますます高齢化社会となりますので、福祉政策についての村としての役割は大変重要になっていくと考えます。つまり、予算の面でも充実させてほしいです。また、このことによって、若い世代の働く場として積極的な面を生かしていくべきではないでしょうか。
- ある程度の年齢になったら、地域活動の参加を考慮してほしい。
- 交通安全母の会は、やってない地区もあるのに統一してほしい。見守り隊の方もいてくれているので必要ないと思う。押し車を押した高齢者の方が時間をかけて来てくれていてかなりの負担があると思う。

④住民のマナーについて対策を講じるべきである（12件）

- 犬の散歩マナーについて、九戸広報、立て看板、有線放送していますが、あまり効果が見受けられなく、無視する方が多く、いやな思いをする毎日です。犬を飼っているところに、家庭訪問の指導強化にも努めていただきたい。
- 犬の散歩でフンの後始末が悪く目立つので、飼い主の人が自覚をもって処理するよう指導してほしい。
- 犬を放して散歩している方がいるので、役場に注意のTELをお願いしても対応してくれません。自分も散歩していて怖いです。
- 大人の道徳心が欠けているのでは…。
- 音に関して無関心な人がいるのでお互いに気にかけてほしい。
- 子供も親ももっと道徳が必要だと思う。
- ゴミの集積所が少ないと感じています。高齢（女性）の方たちが徒歩で苦なく行けるようになれば、家庭内にためることも少なくなり、防災の面でも安全だと思えるのですが。（ゴミ出しの支援者はいても、当人はゴミを見られたくなくて、遠慮される方たちもおられるようです。）
- 近所の人が野良猫にえさを与えるので家の周りに猫が多く庭への糞等に困っている。どこに相談すればいいですか？
- 自分や大地を大切にするためにやるべきことを教えてもらうことがとても必要。命や物を大切にすることはどういうことか。また、その価値観をはぐくむことも必要。村に生まれたことを誇りに思えるには、きちんとした教養を身に着けることが必要
- 外で洗濯物を干しているときは、近くで草などを燃やさないで欲しい。
- めまいがした時に救急車を呼んだら近所の人たちに、「タクシー代わりに使った」と言われ、私はビックリしました。その時はめまいがひどく、一人暮らしですので不安でした。人の痛みもわかって欲しいです。
- モラルの向上がないと、地域での活動が活かされることがないと思います。特に人権の件に関してすら理解できない人間が住んでいることが情けない状態です。

⑤子育て支援を充実させてほしい（12件）

- 経済的に苦しい人へのスムーズな手助けは常に心掛けてほしい。
- 子供がいるいないにかかわらず親の育てやすい地域づくりと地域全体で見守りサポートするシステム作り。
- 保育園に行っていない子供が同年代の子供と遊べるような場があるといいと思う。
- 安心して明るい村であれば子どもたちも素直に生活できると思います。
- 介護、子育てなどに関して県北地域の企業でも協力できるように指導、協力の呼びかけをしてほしい。中小企業での対応は人員的にも厳しいと思うが他の都市部と比べると生活しにくい原因の一つとして大きいと感じる。（休みが取得できない風土がある）
- 核家族が多い中、若者の職業の充実と子育てしやすい環境作りが必要だと感じています。
- 現在少子化が進んでいるのはまず、働く場所がない！保育園も充実していない！小さな子供を育てるには、保育園に安心して預けられ、仕事時間で見てもらえないと若い人たちはこの九戸村では仕事ができず、子どもの世話だけになってしまうと思います。つまり、現状では誰かが仕事をしないで子育てしているのではないのでしょうか。これが、高齢者の一人暮らしにつながると思います。保育園、学童が充実していないと子育て世代はこの九戸村では生活できないのではないのでしょうか？若い人たちが九戸に残ることになり、一人暮らしが減り、高齢者も次の世代へ色々なことを伝えられるのではないかと考えます。

- ・高齢者福祉も大切ではあると思いますが、これからの九戸村のために幼児、子供の福祉を充実させてください。
- ・子育て世代が、安心して子供を産み、育て、教育させられる村にしてほしい。保育所のさらなるサービス向上等。
- ・子どもがもっと気軽に遊べる場所がほしいと思います。
- ・子ども達が安心して遊べる場所が少ないので、どうかして欲しい。
- ・子供の登下校時が心配です。下校の際にも見守ってくださる方がいると安心できます。

⑥経済的な負担を軽減してほしい（12件）

- ・年金生活者や高齢者が遠くの病院へ通院するには何らかの補助が必要。
- ・尾内ゲートボール場の使用料を安くしていただき、高齢者の楽しみを続けさせてください。
- ・現在支援は必要ありませんが、今後車の運転ができなくなった時病院の通院が心配です。建物等の始末のお金が心配です。
- ・高齢でも農業ができるように機械化のための補助金の設立
- ・高齢者や障がい者に対して、もう少し金銭的援助をしてほしいと思います。
- ・これから毎年思うことは高齢になり農業も何もできなくなって年金生活になると思うけど若いころから貧乏で年金をかけなかったから少しの年金でどうやって暮らせるかです。
- ・税金が高い。下げてくれ。
- ・だれか任せではなく、積極的かつ自主的に地域活動に参加する人が増えていく村になっていくことが望ましいと思う。 部落に専門的な知識を持った人を残したり、住民参加の定期的な研修会の実施。
- ・年を取ったら経済的にきつくなると暮らせるような村政を行ってほしいです。
- ・年金生活者にとって介護保険が高すぎる。介護保険の使い道をもっと詳しく知りたい。
- ・年金生活をしている高齢者は、税金や集金などは大変だと思う。
- ・村では、徴収するのは間違いなく徴収するが、村民の利用できるサービスについて、自分が直面したときに、自分で調べて申請しないと受けられないものも多くあると思う。（例えばおむつ代の助成とか）もっと親切に情報を示してほしい。

⑦医療機関を充実させてほしい（10件）

- ・九戸診療所の診療科の科目を増やしてほしい。
- ・今失われつつある地域、町の機能である医療、交通、商店街などがこれ以上なくなならないような施策が必要と思う。
- ・医療機関の充実が最も重要と考えます。
- ・村には病気になっても見てもらえるところがない。みんなほかの町村に行かなくてはならない。こんな村は住みにくい。
- ・夜間・休日に受診できる病院が九戸村にないことがとても不安です。小さい子供がいると、それだけでも心配で他へ移り住んでしまいます。
- ・また、病院はありますが内科と外科のみで、医師の常駐は内科のみ聞いております。さらに歯科医院がありますが、簡単な治療のみです。以上の点が非常に不便と感じております。
- ・診療所の充実と、訪問診療ができる医師の充実。
- ・九戸村診療所に小児科があればいいなあと思います。週一回軽米病院から小児科の先生が来てくださるの

は嬉しいです。村に小児科があれば近くて安心です。冬の運転が苦手な私、冬は特に、近辺の病院へ行くのは大変です。

- 健康診断などの充実や補助など。
- 検診の費用を無料またはもっと安くしてほしい。特に乳がん、子宮がんなど。

⑧若者が減っている（10件）

- 若者が少ない。
- 高齢者への対応ばかり目立つが、若者定住、若者の出会い、結婚、働く場所確保等、先を見通した対策が必要だ。九戸村は小さな村なので、やはり行政がリーダーシップをとらなければ進まないと思う。
- 仕事がないから戻ってこない。村が好きの人たくさんいます。
- 住宅を増やす。若者がいなくなるのは仕事場と住まいがないから。高齢者ばかり増えていく中で、若者がいなくなると支えていくものを居なくなる。都会からもたくさん人が来るように、スポーツ施設の充実など、九戸村はここがいいといわれるような、何かを建設する等、イベント場所があるといいのではないですか…。子育て支援ももっと充実してほしい。病院が充実していないのも困る。けがをしてすぐ見てもらいたいのには二戸か八戸に行かないとダメなのは不便。
- 村外に出ていけない為にも、職場がたくさんあると安心かと感じられます。
- 若者が九戸村に定住できるように、企業の誘致及び所得の安定化等、現役世代を呼び寄せられるようにしてほしい。
- 若者が少ない。
- 若者世代の定住。
- 次代を担う子供たちを地域ぐるみで育てても、都会に行き、居なくなっているようではなんにもならない。
- 地域に若い人がいなく、高齢者だけになり、将来、班長とかのなり手が難しくなっていく。

⑨世代間交流が必要である（10件）

- 年代、あるいは、年齢層別に様々な活動を行っているが、縦のつながりをさらに構築できれば、より住みやすい地域になると考えます。
- 年齢や障害に関係なく色々と自由に地区の者が利用できるようにしてほしいのと住みやすい居場所づくり。
- 雨や雪の日でも子供が遊べる室内の施設が欲しい。ちょっとした道具も置いてお年寄りともふれあえとお互いにいいと思う。
- 昔は老人が物知りでしたが今は若者に何を言っても届かず生きがいのない世の中になってさみしいです。
- 教育も大切ですが、もっと子供たちを高齢者の方とふれあうことが支えあっていくうえで大切だと思います。高齢者のいない世帯が増えてきた今、接し方がわからなかったら介護もできないのではないかと思います。今の子供に必要なのは高い教育よりもコミュニケーションです。
- 世代間の隔たりがない、幅広い年代の人たちが気軽に集まることができる施設があれば各集落にあればいいのでは。幅広い年代が集まることにより、年配の方は若者のことを理解し子育て等手伝うこともできるかもしれないし、若者は、年配の方々の困っていることなどに気づき「何かできるかも…」という考えが生まれるかもしれないです。そして、年配の方々と触れ合うことの多い子供は、比較的、福祉のことなどに関心があるように思います。それは、大人になってからも変わらないはずです。
- 地域で若い世代の考え方、ご年配の方々の考え方が同じではなく、今後の活動においても、これからの時代に合うような、お互いが良い意見を出し合い、少しでも住みやすい地域になればとの気持ちを持った方々

は少なくないと思います。

- 中・高校生も高齢者と接する機会をもっと多くしてほしい。
- 横だけでなく楯も含め年齢や立場を超えた交流の場を設けていくべきだと思う。ネット社会の今、実際の場における人同士の触れ合いの場が少なくなっているため、子どものコミュニケーション能力を養っていくべきだと思う。
- 家族の支えあいを強化し、家族での話し合いを増やしていく。できないところを手伝う。

⑩役場や村への意見（7件）

- 50年後、九戸村は存在していますか？
- 九戸村がいつまでもなくならないように、みんなが住みやすい暮らしができるように考えていきたい。
- 役場支所へ食生活や運動等、体力に合った日常生活を送る指導してもらえる専門職員を配置してほしい。
- 警察もだが、行政も定期的な村内見回りが必要だと思う。
- 超高齢化である九戸村であるのに、保健・福祉についての考え方が甘い。政策が何もないため近隣の市町村との差が大きい。トップの指導力が弱いと思う。
- 役場に行くと担当者がいないとわからないと言われることがある。せっかく行ったのに無駄になることがあるので何とかしてほしい。
- 役場の職員がもっと地域に入り込んで実態をつかむべきだ。

⑪困った時どこに相談すれば良いかわからない・相談できる場所が欲しい（9件）

- 村にどんな施設があって、どのようなサービスを受けられるのか分からない。・相談できる場所を増やす。・どこに行き、誰に相談すればいいのかわからない。
- アンケート内にもありましたが相談に行ったとき、窓口のたらいまわしが時々ある。
- 気軽に何でも相談できる人が近所にいたら。
- 子どもに世話にならず、一人になっても家で暮らしたいと考えています。そのため買い物に心配です。歩けるうちはいいのですが…。ちょっとした病気の時、気軽に相談できる人がいたらいいなと思います。
- 仕事、その他の相談にも答えて欲しい。自分は仕事のことです。いろいろな悩んでいるからです。
- 悩み事相談まとめ本。各部落に民生委員の方がいらっしゃいますが、実際のところ誰だっけ？と思う人たちもいると思います。また人に聞かれないけど相談したい人もいます。相談事によって行く場所を、例えばごみの分別本のように一冊の本にまとめて全戸に配布してもらえたら…と思います。だれもが理解しやすいように簡単な言葉で。
- 何のサービスを受けるにしても、あれこれ手続きが大変そう。もっと楽にサービスを受けられないか。また、相談するにしてもどこに行けばいいのかわからない。
- 迷ったときにどこに相談したらいいのかわからない。電話をしても、待ち時間が多く、担当者がたびたび変わってしまい、相談をやめてしまいたい気持ちになっていると思う。ピンポイントで担当者につながるシステムの構造を変えるべきだと思う。
- ちょっとしたことでも気軽に相談できる場所があるといいと思います。

⑫アンケートに関する意見（4件）

- 意見・要望等は多々あるものの、文章で書きだせと言われては何かから書き出せばいいか悩んでしまう。
- 思うところはあるけれど気軽に書けないので聞いてくれると意見・要望も出ると思います。

- ・このようなアンケートを実施することは、地域福祉向上に大変有意義なことだと思う。
- ・それなりに行政も頑張っていると思いますが、このアンケートを見る限り、住民の自主性に期待しすぎているように思えてなりません。引き続きご検討を期待します。

⑬除雪が大変である（8件）

- ・一人暮らしの高齢者が多くなってきているので冬季の除雪が大変だと思います。除雪車の通った後の家の前の除雪が大変だと耳にします。高齢者一人暮らしでの除雪は体力的にも無理があります。
- ・年寄り世帯は、夏場の草刈りと、冬場の除雪がとても重労働なので、手助けが欲しいと思います。
- ・一人暮らしで、大雪の時の除雪。
- ・川向地区の除雪が大変遅すぎる。出勤時間に間に合わない。毎年困っている。
- ・冬の除雪がなかなか来なくて1～2日身動きが取れないこともあるので、まんべんなく除雪してほしい。
- ・空き家の除雪作業をお願いします（通行人の安全確保）。
- ・除雪作業なども高齢者には負担が大きいのと思われます。
- ・雪かきの負担軽減のために除雪機購入に係る助成金があると有難い。

⑭ハード面の整備が必要である（8件）

- ・九戸村公民館図書室のトイレを洋式トイレにすべき。
- ・九戸分署の新庁舎についてどこまで話が進んでいるか気になるところ。
- ・オドデ館内のトイレの改装、全体のトイレ掃除の指導、障がい者の方の為の専用ごみ箱設置等バス停の屋根設置など。オドデ館内のトイレ、車いすの方が使いにくい。ドアを開けられない。トイレ入り口やトイレが狭い。また、トイレの出入り口が狭い。自動ドアの必要性も考えられる。
- ・役場を訪れる高齢者や歩行に障害がある人に対して、2F以上に行く通路に配慮がないと思います
- ・除雪作業中に壊したものをすぐに直さない。特に、ガードレールがめくれたり折れ曲がったりしている。
- ・核家族が増え、子どもたちにも助けを求められないので、この地域に住むためには一人暮らしができる安いアパートが必要だと思う。
- ・小学校の統合化を進めてほしい。
- ・夕方に川から家畜の排せつ物のおいがするときがある。

⑮老後の生活に不安を感じている（7件）

- ・今の地域の家庭の年齢構成をみても、シルバー世帯がほとんどで、この先々不安をおぼえます。健康管理に気お付けるといっても老いには勝てません。いざとなったら家族や親戚が駆けつけてくれる関係を保っておきたいです。畑仕事や、でられる地域、村行事には皆さんと一緒に活動したいです。最後どうにもならないときは、老人福祉施設を利用します。利用しやすい施設の増加を望みます。
- ・今は自分で車の運転をし、買い物通院などできるが、将来人口も減り、高齢者が多くなるのに交通機関も減っていく中、生活に不安を感じる
- ・今はまだ、車の運転もでき、買い物にも行き、日常生活に全く支障なく生活できている。この先、年をとり、動けなくなり（車の運転もできなくなる）、生活に困難をきたしてきたとき、村内にはタクシー会社が1つしかなく、利用したい時、利用できないのではないか。夜間とか具合が悪くなったらどうすればいいのか、不安になることがあります。子供や孫がまだそばにいたので、日頃からコミュニケーションをとり、家族の中で支え合っていけるようにしたいと思っています。

- 共働きで、近所の情報がほとんどありません。この頃見かけないなとか思うこともあります。自分も今後年を取り、一人暮らしになったら心配なこと、不安なことがたくさんあります。安心して暮らせたらいいと思います。
- 防災や地域福祉について、村内自治会（行政区）での意識、体制づくりに差があり、例えば火災時の炊き出しにしても、自治会が対応するところがあれば、村が行うべきだと主張する連絡員もいると聞いております。日頃から自治組織の中で支えあう体制ができて、引き継がれることが必要だと思います。
- 老後の生活ができるか心配。
- 私は気が付けば78歳になり、自分でもびっくりです。この頃は、いつまで生きられるか、周りの人に迷惑をかけたくない、年輪的に頑張っても動けません。とても老後が心配です。

⑩介護・福祉サービスを充実させてほしい（7件）

- 住み慣れた地域で最期をとと思っている人はたくさんいると思う。私の母もそう話していますが、それを介護する人も同時に年を取っていくし、将来が心配です。老後を安心して住めるように老人ホームではなく、自宅で過ごせるような援助があればいいと思います。24時間体制の介護をしてくれる人。また一人暮らしになり子どもがいない人が、安心して住めるような住宅等、緊急時対応できるような体制があればいいなと思います。
- 世代間が詰まり、働き盛り世代（35～50代）が、育児と介護がいっぺんに訪れている。風邪などの子供を預かる施設や、デイサービスの充実がしっかりすれば、働き盛りの世代を支え、収入も安定し、村内企業も充実して、税金もUPすると思う。高齢者もちろん、働き盛り世代を支えるような、地域づくりをしてほしいと思います。そのことにより、過疎化対策につながると思います。
- 低所得者（年金）が入れる老人介護施設が村内にほしい。
- 低所得者・年金生活者でも差別なく福祉サービスを受けられるようにしてください。
- 福祉サービスやイベントなどの取り組みの紹介を積極的に行ったほうがいい。なるべく各々が自己投影できるような具体的で写真付きの紹介、体験談の紹介など。広く周知することによって、利用者、協力者が増えるのでは。
- 福祉サービスを充実させてほしい。
- 福祉はデイサービスの利用などもありとても良いと思います。一人暮らしの高齢者の買い物など大変そうに思います。健康で長生きできるよう、食生活の指導にも力を入れていただきたいと思います。

⑪災害時の対応に関すること（6件）

- 災害時や緊急時、何が必要で、どうすればいいのかわかりにくく、村と村民がお互いに把握するのが大切である。
- 洪水の際、氾濫警戒水域を超えた河川を渡って避難施設に向かうのは危険です。
- 災害時の対策など遅れているので進めてほしい。防災無線などを通して、生の災害の方法を知りたいのに、大雨が降っても大雪が降っても関係ないことを放送している事にどうかなーを思っている。
- 最近、自然災害が多くなり、ハザードマップが作成されていないようだが、必要不可欠ではないかと考えます。何年前には作成するとのことでしたが、いまだ届いていません。
- 設問が難しいというか、考えすぎると答えが出せないところがあります。災害時の避難場所もわかっているつもりでも果たしてあっているのか不安になる。
- 村では今初めて災害について放送したりするみたいですが、毎年部落ごとに避難訓練したらどうですか。

⑱少子高齢化対策を講じるべきである。(6件)

- 色々な人がいろいろ言うけれど少子高齢の社会、あなたならどうする？教育委員会、実りある生涯教育を願います。
- 九戸村に限ったことではないが、人口の減少が著しい現状に対する効果的な、若しくは、緩和的な打開策を講じるべきではないか。子育てに関しては充実しているほうと考えるが、一番の問題は就職先が少ないことではないか。持続的に居住してもらうために、第二次産業または第一次産業の大手等を誘致する等の施策が必要になるのではないか。
- 九戸村には独身男性、独身女性が多くみられます。これをどうにかしなければ、高齢者が多く、子供が少なく、このままでは九戸村がなくなってしまうのでは？と私は思いました。どうかこのことも力を入れて村の為にやって欲しいと思います。
- 九戸村は緑豊かな、のんびりとしていて良いところですが、この先老人だけになるのではと、心配しています。九戸ならではの農作業など魅力ある九戸にするには、どのようにしたら良いのか、九戸のトップの方が村民と一緒に考えてみたらいいかと思います。
- 子どもが少なくなっているがその対策について今から考えるべきではないか。
- 村の人口増加、人づくりを進めてほしい。

⑲認知症や介護に不安を感じる(6件)

- 介護が必要になった時、どのような道順があるのか、村民のみんなが知っていることが大事である。その情報については知らせるべきである。
- 子育て支援や高齢者支援は国や村でもよく聞かすが、子育てが終わった世代、まだ高齢者には早い世代(50代~)の支援が忘れられているような気がする。親の介護、自分たちの将来に不安を感じることもある。
- 認知症テストなどを、65歳以上を対象に実施してほしい。予防にもつながると思うし、行政で実施すれば必ず受け入れてくれると思うので、家族も安心。
- 認知症にならないで家族や知人に迷惑をかけないで老いたいです。
- 認知症になることが一番悩みの種です。だんだん年を取ってくると車をつかえなくなるので、交通の面で不便になり、好きなこともできなくなる。ボランティアもやってみたいので、詳しく知りたい。
- 認知症や介護などで困った時どこに相談すれば良いか。村民の何パーセントが知っているのかと思います。行政からの発信も大切ではないでしょうか。たとえ知っているても相談に行けない方々をどうするか教えていただきたいです。

⑳健康に留意して暮らしている(5件)

- 行政にばかり頼らず体力を維持するための毎日努力が必要だ。
- できるだけ健康でいられるようにできることを実行する様にしています。(例、酒を飲むにしてもすごさない)(例、掃除とかできることを続ける)
- 自ら健康であることを意識し、努力する予防ができる村づくり。
- 毎日元気で健康で楽しく暮らすように気を付けています。
- 自らが普段から健康づくりを積極的に行う努力が必要。地域で啓蒙活動を行う。(禁煙、体力、転倒予防、減塩、バランス食など) 地域での見守る仕組みづくり。

⑳地域行事・イベント等に関する意見（４件）

- 地域の様々なイベント等に参加したくないのですが、そういうことを気にせず自由に休日を過ごしたいです。
- 昔からある行事が減り、知らない間に新しいものが増えているということが多々ある。新しいものが増えることも良い。昔からある行事を大切にしてほしい。
- 人口の少ない地域だが、お互いの顔が見えるような様々な行事などを行ってほしいです。
- 各部落で公民館を活用した活動を多くする。例えば、私の実家では近くの公民館で正月であれば、みずきだんごづくり、どんと祭り等が行われていました。そういう活動が九戸村では少ないと思う。移動手段が少ない高齢者、子どもたちのために送迎車を出してほしい。HOZ ホールでイベントがあっても行きたくてもいけない人達もいると思う。

㉑街灯を増やしてほしい（５件）

- 村全体、表の道が暗いので街灯の増設。
- 暗い夜道を歩くのがつらいので街灯をつけてほしいです。
- 夜、暗すぎるので街灯を増やしてほしい。新たに設置するのは難しいと思うが、館ノ下の下水場には、街灯が２基あるが点灯していないので、せめてその街灯だけでもつけていただくと、全体が明るくなり、かなり違うと思う。夏はトラクター等で、冬は雪で道路も見えなくなり、かなり危険なので、今あるものを有効に使ってほしい。スイッチを入れるだけと思うのですが？
- 夜道を安全に歩くために、街灯を増やしてほしい。
- 冬場は日が暮れるのが早く、下校時に暗くなっていることもある。暗くて少し怖い道もあるので街灯を増やしていただくとありがたいです。

㉒村内放送が聞こえづらい（５件）

- 村の放送が聞こえづらい為、室内でも聞こえるように機材提供すべき。
- 無線放送が耳の遠い方には聞こえていないようです。
- 時々流れる役場の案内無線は家の中では聞き取りにくいので、家の中でもしっかり聞けるような方法。
- 町の緊急時の案内などの放送が何を言っているか全く聞こえません。
- 有線放送が聞こえづらい。

㉓交通手段の確保が必要である（５件）

- 病院、買い物に行くための交通手段を増やしてほしい。高齢者の方の足の確保や商店街の賑わいにもつながると思う。
- 高齢による健康と交通機関の確保が必要。
- 子供や高齢者など、医療機関へ通うための交通の確保
- 車があり、一緒に行ける人がいる方々は良いと思うが、そうでない方々は大変だ。道のりがあり、重いものを持っていると重労働であると思う。
- 今失われつつある地域、町の機能である医療、交通、商店街などがこれ以上なくならないような施策が必要と思う。

②⑤民生委員に関する意見（3件）

- ・近所で挨拶しあえるようになってほしい。民生委員は、話しやすく相談しやすいようにお願いします。
- ・民生委員活動の充実。だれが困っているか、または相談するところが分からない人に手を差し伸べるための徹底情報収集に努め、迅速に助言・手助けをしてほしい。
- ・民生委員はどのような仕事をしているのでしょうか。高齢者や障がい者に対して、支援をお願いしたい。

②⑥人材育成が必要である（4件）

- ・福祉協議会の人材登録者のスキルアップを図り、新たな公共事業運営。
- ・①ボランティアや見守り隊など人材を育成し地域資源を開発していくべきである。②リーダー（格）となる人材を育てたら、啓蒙活動や場所の提供が必要となる。③自治体別に話し合い検討していくべきである
- ・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域づくりを実現できる人材育成をしてください。
- ・有償ボランティアの育成。

②⑦商業施設を充実させてほしい（3件）

- ・店が少なくなり、買い物に不便が生じている。
- ・是非ともスーパーマーケットを作って欲しい。
- ・特に不便を感じることは大型スーパーが村内にない
- ・失われつつある地域、町の機能である医療、交通、商店街などが、なくならないような施策が必要と思う。

②⑧障がい者への配慮が必要である（3件）

- ・健常者や行政の人が、障害者に対する言動などは気を付けてほしい。
- ・障がい者が地域で暮らせる場所づくり、理解者を育成する。
- ・障がい者が地域で暮らしていくことができるホーム（グループホーム、ケアホーム）が必要です。親は子供より先に死亡する。あとは残った障がい者が安心して暮らせるような場所がない。早急に対応できることを希望します。

②⑨道路を整備してほしい（3件）

- ・中学校の武道館側の道路を整備してほしい。
- ・表題の「住み慣れた地域で安心して暮らす」ための共通する課題として、要望します。年々異常気象が多発する中、大雨・洪水の度に大向地区だけでなく管波地区6戸も危険にさらされています。340号線から入ってすぐの岩場の低い道路の浸水、古い管波橋を水が越えるなど避難路が寸断され、遅れると非難できないのが現状です。住民のほとんどが高齢者で怖くて助けを求めてくるときもあります。洪水で損傷した箇所はその都度修復していただいています。以前は川幅も広く川底も低かったのですが、これまでの洪水で土砂が堆積したままになっています。要望としては、入口の低い道路はかさ上げして常に避難できるようにしてほしいです。また、橋に関しては橋の下の3分の1にまだゴミと土砂が残っており、橋付近の土砂と一緒に除去し、同時に川底も掘り下げてほしいです。住んでいる当事者でないとなかなか理解得難いですが、濁流の騒音とともに水かさが増してくる様子は本当に怖い。夜は見えないのでそれ以上に怖く、眠れないです。どうか住民の心境をご理解いただき、早い時期の工事着手をよろしくお願いいたします。
- ・歩道が狭い。特に通学路を速度通貨の車が通るのでとても心配です。

③⑩その他（18件）

- 回覧板が汚くて触りたくないです。
- 小学区統廃合・消防団分数削減・村議会議員の削減。
- 村のホームページの中身がなさすぎだと思います。
- 良い地域づくりをするためには、九戸の商品券をどこでも使えるようにしてほしい。
- 現在の状況でも、考え方や理解の角度を変えれば行われているものがたくさんある。そこを継続していけるような説明や支援をしていけば、ごく自然に地域になじみ、新しいことも手を伸ばせるのではないか。
- 空き家への対応。田畑への対応。
- 一人暮らしの高齢者ゆえに、日常的に皆様に労力もコストも無視で万般お手伝いいただき、とてもありがたく感謝しています。
- この村では寄付金（例、赤い羽根など）色々ありますが、そもそも寄付のはずか領収書を名前付きで印刷して持ってくるのは強制ではないかと思うがどうですか。
- 祝日にかぶれば2週間に一回の回収の為、ゴミ回収は週に2回必要だと思う。
- オドデ館への接客や、販売作物についての知識やきちんとした説明ができるようにしていただきたい。また、接客の時の笑顔が足りないと感じられる。
- これからの九戸村に安心して暮らしていけるよう願っていますが、その逆に不安も感じて本当に将来大丈夫なのかと改めて考えさせられました。
- 「あったか生活支援事業」の対象者をもう少し考えたほうが良いと思う。
- 住み慣れた地でぼっくり逝きたい。
- 何事も利権を主張する前に、義務もしっかり果たさなければいけないと思われる。
- ベーシックインカムを希望する一人である。消費税は20%まで上げて大丈夫。生活保護の不正受給者が多い気がする。このままでは、九戸村がつぶれる。住みたいと思えない村になってきている。
- 夜中のパトロール、不審車両の目撃情報があったら放送で知らせてほしい。
- 私は70歳になり、地域の皆さんからもお世話になっています、家族もなくなり、やれることは協力していきたいと思います。
- 家族のために、家から遠い老人ホームに行きたい。そのために、仕事の手伝いをして体を動かします。

住民アンケート調査票

「九戸村地域福祉計画」・アンケート調査

ご協力のお願い

平成29年11月／九戸村

日頃より、村行政へのご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

今年度、九戸村では、皆様がいつまでも住み慣れた地域で、お互いに、助けたり助けられたりしながら、生活を続けていけることを目指して、「地域福祉計画」を作るための取り組みを進めております。

つきましては、この取り組みに住民の皆様の考えやご要望を反映するため、アンケート調査を実施することと致しました。このアンケートの対象は、村内に住所がある方々とし、全戸配付により、年代別に無作為抽出で行うものです。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解のうえ、別紙アンケートにご回答くださいますようお願い致します。

なお、アンケートの回答をお願いした方が諸事情で回答できない場合は、同じ世帯の方が代って回答いただいてもかまいません。

回答に当たっては、選択肢を選ぶものは、それぞれの問いにそって選択肢に○を、記述式回答については、回答欄にご記入をお願いします。

この調査票は同封の返信用封筒により、11月24日(金)までに、行政連絡員(班長)により回収させていただきますので、ご協力くださるようお願い申し上げます。

担当・問い合わせ先：九戸村住民生活課 地域福祉班（大久保・館）

電話：0195-42-2111（内線201・203）

問 17 福祉や健康について、どんな情報を知りたいとお考えですか。【〇は3つまで】

①健康づくりについてのサービスの情報
②子育てについてのサービスの情報
③高齢者についてのサービスの情報
④障がい者についてのサービスの情報
⑤福祉や健康についてのサービスの利用方法についての情報
⑥介護保険についての情報
⑦介護保険や福祉のサービス提供事業者のサービス内容の情報
⑧ボランティア活動やNPOなどの活動についての情報
⑨健康づくりや生きがいづくりの講座や教室についての情報
⑩高齢者や障がい者が生活しやすい住宅や福祉機器についての情報
⑪特にない
⑫その他 ()

問 18 地域福祉の充実に向けて、住民と行政の関係をどうお考えですか。【〇を1つ】

①家族や地域、住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助するべきである。
②福祉の充実のために、住民も行政も協力し合い、ともに取り組むべきである。
③行政が責任を果たすべきだが、手の届かない部分は住民が協力するべきである。
④福祉を充実する責任は行政にあり、住民はそれほど協力することはない。
⑤分からない
⑥その他 ()

問 19 今後、村ではどのような施策を優先して充実すべきと思いますか。【〇は3つまで】

①身近に相談できる場所づくり	②住民がお互いに支え合うしくみづくり
③次代を担う子どもたちの福祉教育	④ボランティアやNPOなどの活動支援
⑤高齢や障がいを持って在宅で暮らせるサービスの充実	
⑥いつまでも健康でいられるサービスの充実	
⑦サービス利用者を守る権利擁護や苦情対策などの取り組み	
⑧高齢者や障がいのある人などの地域の居場所づくり	
⑨地域ぐるみの子育て支援	
⑩わからない	
⑪その他 ()	

問 20 誰もが住みなれた地域で安心して暮らすことのできる地域づくりを進めるために、日頃感じていること、ご意見やご要望等がありましたら、自由にご記入下さい。

これで質問は全て終わりです。ご協力ありがとうございました。